



TITLE:

表紙・目次・参加者一覧・あいさ
つ・編集後記

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・目次・参加者一覧・あいさつ・編集後記. 京都大学の天文学100
年と発展の礎 2011

ISSUE DATE:

2011-02

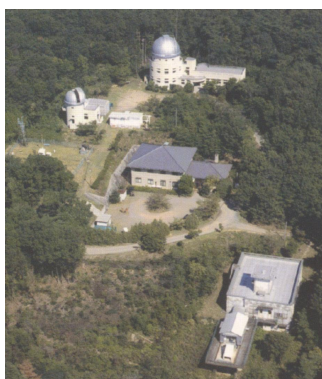
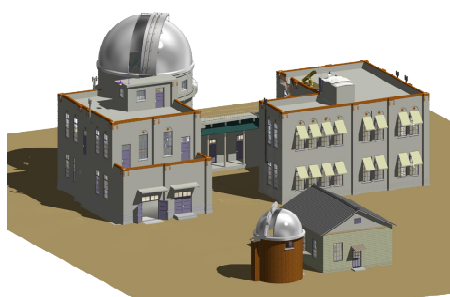
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/153472>

RIGHT:

京都大学の天文学 100 年と発展の礎

ー天文台アーカイブプロジェクト報告会集録ー



2010 年 11 月 30 日 総合博物館セミナー室

京都大学総合博物館＋理学研究科附属天文台＋
理学研究科宇宙物理学教室 共同プロジェクト

<表紙写真解説>

京大天文台

(本部構内に 1938 年まであった、CG 復元画)

花山天文台

(2004 年撮影)

宇宙物理学教室

(2007 年撮影)

京大総合博物館

(2011 年「はやぶさ」展開催時)

目次

1. あいさつ	大野照文	1
2. 京大における天体分光観測について	小暮智一	3
3. 新城新蔵資料ー7インチ屈折 Sartorius 望遠鏡導入時のドイツ国光学メーカーとの往復書簡	北井礼三郎	11
4. 天文ムービー制作と上映	山下俊介	17
5. 乾板および火星スケッチのデジタルデータ化	前原裕之	23
6. 太陽全面 Ca II K スペクトロヘリオグラムー30年にわたる京大生駒観測所乾板資料ー	北井礼三郎	27
7. 天体写真儀について	富田良雄	31
8. 山本一清博士（初代台長）資料について	富田良雄・柴田一成	37
9. 国立天文台すばるアーカイブズ室について	田島俊之	43
10. 国立天文台の天文博物館構想に向けてのアーカイブ活動	中桐正夫	47

参加者（16名、敬称省略）

総合博物館：大野照文、永益英敏、五島敏芳、山下俊介、池田素子

情報メディアセンター：元木環

附属天文台：柴田一成、北井礼三郎、前原裕之、野上大作

宇宙物理学教室：富田良雄

国立天文台：中桐正夫、田島俊之

京都学園大学：岩崎恭輔

龍谷大学：小長谷大介

京大名誉教授：小暮智一

あいさつ

大野照文

今日はたくさんお集まりいただきまして、ありがとうございます。

わたしどもの博物館が、天文学と非常に接近したのは、一昨年「京の宇宙学」の展示のお手伝いをさせていただいた時でございます。ここにおられる京大の先生方のほとんどを、まきこんだのかまきこまれたのか、どっちが原因者でどっちが被害者か分からんぐらいみんな楽しくやってしまいました。その折に富田先生に聞いておりますと、貴重なアーカイブすべき資料がたくさんあると分かりました。今まで研究成果は論文になり、図書館に収まり、研究材料の標本類などは博物館におさまることになってるんですが、じゃあ写真乾板などはどないするんかという貴重けど今まで行き場所の無かったものについても京都大学としましては研究資源アーカイブとして収集しようという機運が高まってきました。今の世の中は忙しいので、とりあえず成果を出さないかんとご無理を申しあげまして、宮本先生の火星のスケッチとか、乾板類などをデジタル化させていただくようお願いしたわけです。けれどもそういうこと以上にですね、天文学の人はめっちゃ好奇心が強い人が多いので、どんどん話が進みわたしら博物館側としてはなんていうかもう化石化してまして、その後を追いかけていろいろ教えて頂くようなことになっています。

今日は経過の報告会と、それから次への展望ということで、大変楽しい会であります。私のほうは、お前管理職やろってことでこき使われておりまして、バタバタとマクドナルドの店長さんみたいに、入ったり出たりしますけれどお許してください。それからこれは宣伝になりますけれども、来年の2月2日から6日まで、こないだかえってきました「はやぶさ」の展示を、天文学の先生方の全面的なご協力のもとに行いますので、予告をしておきます。

編集後記

2008 年度に始まった京大天文台アーカイブプロジェクトは、総合博物館、理学研究科附属天文台および宇宙物理学教室三者の共同の調査研究として、京都大学においてこの 100 年間に行われてきた天文学研究の原資料の整理保管とデジタル化を通じて、その成果のコンテンツを大学内外に公開する事業をすすめてきた。今回その中間報告として小研究会を開催し、関連する研究者の皆さまから貴重なる経験を含めた成果発表を行っていただき、その集録をこのような形でまとめることができた。とりわけ生駒山太陽観測所で観測されたカルシウム線ヘリオグラム乾板と紫外線データの比較研究は数十年におよぶ長期変動の基礎データとなりうるものであり、各研究報告にはそうした今後の展望も語られており、それぞれが現代科学とも接点をもつ萌芽をふくんでいるところが、期待がもてるであろう。また、デジタル化された火星観測スケッチなどを用いた動画教材の作成など、各方面への利用もまた期待されるところである。

(富田記)



天文台アーカイブプロジェクト報告会集録

発行日：2011年2月28日

発行者：京大天文台アーカイブプロジェクト（京大総合博物館、
理学研究科附属天文台、理学研究科宇宙物理学教室）